

第125回長崎大学経営協議会議事要録

1 日 時 令和4年1月17日（月）13時30分～15時22分

2 審議事項

(1) 第4期中期目標（原案）・中期計画（案）の提出について

理事（総務担当）から、資料2-1～資料2-4に基づき、第4期中期目標・中期計画について、資料のとおり中期目標（原案）及び中期計画（案）を文科省に提出することについて説明があり、審議の結果、了承された。

なお、今後、文部科学省からの通知を受けた修正については、学長にご一任いただきたい旨の説明があった。

また、概ね以下のような意見交換があった。

（◎は学外委員，○は大学側の発言）

- ◎ 定量的指標の数字目標が細かく提示されているが、数字目標を提示する場合に、意欲的な数字にチャレンジする、確実に到達しやすい数字にする等の大学全体としての方針はあるのか。
- 今回は全てフラットな目標としている。大学本部のほうでできるだけ高い範囲で目標を設定している。

3 報告事項

(1) 令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果について

副学長（計画評価担当）から、資料3-1～資料3-4に基づき、令和3年12月1日付けで文部科学省から通知された令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果について報告があり、概ね以下のような意見交換があった。

（◎は学外委員，○は大学側の発言）

- ◎ 書類の書き方を工夫して、取組の成果を一言付け加えると評価が上がるのではないか。
- ◎ 評価については、文部科学省からの評価も重要であるが、主観的な角度、社会的な見地から見た評価が重要になるのではないか。卒業生等の社会で活躍している方が、長崎大学で学んだことがいかに大事なことであったかということによって社会的に評価が上がるのが非常に大事ではないか。もっと全体的に長崎大学の魅力を大きく発信して、それに自信を持ってよいのでは。
- ◎ 長崎大学がプラネタリーヘルスを推進して情報データ科学部を設置してデジタル化に対応し、それから国際化に対応していく。脱炭素、環境保全と併せてこれらのテーマにどのように対応していくのかということが、学長が替わっても追及していくべきことではないか。
- 安定していると言われてきた大きな企業でもコロナのパンデミックでぐらついている。これからは今までの価値観では通用しないと考えると、教育、研究の重要性が増してくる。大学としていかに社会に還元できるかということを示していきたい。

(2) プラネタリーヘルスに関する取組について

学長特別補佐（プラネタリーヘルス担当）から、資料4に基づき、今年度の長崎大学によるプラネタリーヘルスに関する取組を教育面、研究面、及び実現に向けての取組として

まとめたものについて報告があり、概ね以下のような意見交換があった。

(◎は学外委員，○は大学側の発言)

- ◎ プラネタリーヘルスについて，高校生に対してもぜひアピールして欲しい。
 - 大学だけの活動にとどまらず，高大連携を積極的に行いたい。
 - ◎ アカデミズムだけではなく，色々な人たちと手を携えながら課題解決に向かっていくことができる研究者をどのように育て，どのように評価していくのかということが重要になるのではないか。
 - 若手研究者に大学院生のうちからテニユアトラック教員として研究に励んでもらう予算を準備している。委員からご指摘のあった点を意識して続けていきたい。
- (3) 令和4年度国立大学法人運営費交付金等予定額の概要及び本学の内示状況について
理事（財務・施設担当）から，資料5に基づき，令和4年度国立大学法人運営費交付金等予定額の概要及び本学関係の概算要求に対する内示状況について，報告があった。
- (4) アニュアルレポートについて
理事（財務・施設担当）から，資料6に基づき，運営費交付金共通指標である「会計マネジメント改革の推進状況」への対応も含め充実を図ってきたアニュアルレポートを昨年度と同様に，令和2事業年度決算結果に教育研究活動等の非財務情報を加えた形で作成したことについて，報告があった。
- (5) 長崎大学業務方法書の変更について
理事（総務担当）から，資料7に基づき，令和4年4月1日から施行される国立大学法人法の一部を改正する法律等の法令改正に伴い，本学の業務方法書を変更することについて，報告があった。
- (6) 長崎大学職員給与規程等の一部改正について
- (7) 令和4年度長崎大学経営協議会の日程について
- (8) 最近の大学の主な動きについて
上記(6)，(7)及び(8)の報告事項については，事前に送付した資料により確認いただいているため，資料配付のみとした。

(以上)